

里山コモンズクラブ通信

2014 夏号

みなみやま

Satoyama Commons Club News MINAMIYAMA

NPO
南山の
自然を守り育てる会

http://www.ina-mina.com

●お問い合わせ先

発行・責任者

090-6658-7611(梁川) / 090-3579-4537(坂本)

里山コモンズクラブ通信「みなみやま」はNPO法人南山の自然を守り育てる会の活動案内です。

編集・責任者

南山の状況は…

南山のまちづくりでは来年2017年のまち開きにむけて、着々と工事が進んでいます。南山小学校が春に開校し、公営 稲城・府中メモリアルパークも供用開始します。また野村不動産の412戸のマンション「プラウドシティ南山」の広告が公開されました。東部地区のまちづくりに置いて、里山やまちづくりに関心のある人たちが集う「稲城南山倶楽部」も動き出しました。「稲城南山倶楽部」では将来できる南山クラブハウスや公園作り、緑化事業などワークショップやイベントを通じて、「住民参加型」の未来のコミュニティ作りを目指しています。一方、開発エリア外の西側では5月25日に「いなぎ森フェス2014」がめぐみの里で開催されました。稲城を拠点とするミュージシャンのライブコンサートやブースなどに約800人の参加者がありました。私たちはウッドデッキ作りで共同作業をした駒沢女子大学・人文学部・空間造形学科の榎本先生と学生達で竹を使ったアスレチックやスラックラインなど設置し来場した子ども達に人気を博していました。森フェスは、里山活動の別団体も一緒になる初のイベント作りでした。奥畑ヴィレッジも2カ月に1~2人ほど、問い合わせに来ての方をご案内しています。色々とハードルの高いプロジェクトですが、実現に向けて活動しています。会員の皆さんもぜひご参会ください。一緒に盛り上げていきましょう。(坂本)



多摩エコ・フェスタ 2014の報告書から…

2014.2.22~23

昨年に引き続き、今年もパルテノン多摩にて多摩エコ・フェスタ2014に参加しました。配布された報告書の記事が良いので転載します。



里山景観を共有するわが家づくり

エコ・フェスタ2014の出店者によりトークでは、NPO法人・南山の自然を守り育てる会(稲城市)のコーポラティブハウス建設の話がユニークだった。これは「里山の開発反対」だけを叫ぶのだけでなく、逆に多くの住民が里山を共有して楽しむ家を立てて、景観を楽しんだり守っていこうという取組みの提案。2戸で1住宅のセミディタッチハウスという方式の家を7棟(14戸)建てる。延べ床面積は約90m²~。参考予算は約4500万円~。入居希望者たちが建設組合を結成し、その組合が主体となって土地を取得、建物の設計、工事の発注などを行い、住宅を取得し管理していく。前に広がる里山には果樹と菜園のコミュニティや、散歩が楽しくなるフットパスなど整備される予定。

2017年頃の竣工、入居を目指す。

(多摩エコ・フェスタ2014 報告書より抜粋)



プラウドシティ南山
http://www.proud-web.jp/mansion/minamiyama/



稲城・府中墓苑組合
http://www.if-boenkumiai.jp

サンショウウオ調査体験記

4月3日(木)トウキョウサンショウウオ調査のため、朝8時に自宅の船橋を出て10時過ぎに京王読売ランド駅に到着し、同行する地元会員の人の車で山の中に入りました。山の中で2時間ほど調査活動をして、昼食のために車で街中にでて、道路沿いのガストでランチを3人でおしゃべりをしながら食べました。雨が降っていなければ、川沿いの満開の桜をみながら、缶ビール片手にコンビニ弁当でも食べたかったのですが残念です。昼食後は、1時間ほど活動を再開して、私だけ早めに切り上げさせてもらい、駅まで歩いて戻り、船橋の自宅には午後4時過ぎに帰りました。(海老塚)

コラム ☆原っぱの効能!?

公園などで、草が伸びていると「荒れている」「手入れしていないのか」と文句を言う人が居る。役所などにこうした苦情が届くと、「綺麗さっぱり」全ての草が刈り取られたり、花壇等に造り変えられてしまうことがしばしばだ。町田市の筆者宅近くの自然公園には、長く維持されてきた見事な「原っぱ」が見られるが、市では観光目的などの開発計画が持ち上がっている。

京都にある草原の山、通称「三笠山」では、毎年一回人為的に山火事を起こす。これは「火入れ」と呼ばれ、こうする事で樹木等が生えることを防ぎ、毎年土壌中の種子や根から生えるススキなどで覆われた草原の景色を保っている。

これと同様に、秋などにある高さで草刈を行う等、ススキなどが毎年生える状態を保つと、冬枯れにより毎春にはまだ草丈の低い中でスミレやオオイヌノフグリ、カントウタンポポなどが花を咲かせてにぎやかな光景となる。これらはススキなどが生い茂る夏には休眠している。

ところが狭い意味では、人手が入らない事が「自然」の条件とされる。では人が手を入れないと、原っぱはどうなるか。ススキなどの草原は、やがてクズなどの蔓植物や、ササ等の丈の高い多年生植物に多い尽くされてやがて優占されてゆく。そうなるとヒト等立ち入ることが困難な密生した藪となり、その中は植物にとっても暗く、他の草本も生えることの困難な種数の少ない群落となる。

また、近年ではヒトが何らかの形で移入させた帰化植物が、ススキのまだ十分多く

ない土地に侵入したり、春先に伸びて土地をススキより先に優占することが多い。たとえばセイタカアワダチソウは、一度広がってしまったと発芽抑制物質を土に散布する事で、他種の共存を妨げて単一種の群落となる。ただし、そのまま長くアワダチソウの「天下」が続くかと思いきや、何年か経つうち養分を使い尽くすと自分達の出した発芽抑制物質のために自滅するといふ。

長く他の植物と共存できるススキやヨシなどは「茅」とよばれ、人は簾や屋根材などにも利用して長く親しんできた。そのため、ヒトは「茅場」を長く活用するため、上記のごとく手入れをして積極的に維持してきた。それが結果的に、ほかの草本植物も共存できる環境の管理につながってきた。

それを思えば、草むらの見方が変わってくるのではないか。勿論ヒトの立ち入れない草むらばかりでは困るが、適度に管理してヒトと共存する「原っぱ」も「自然」のひとつの姿として、もっと評価してもよいのではないか。南山にも、管理の仕方次第でよい原っぱとなり得る土地が、まだあるはずだ。これから「まちづくり」と「自然回復」を考えると、そういった視点をもっと生かしてほしい。(桜井)



セイタカアワダチソウ
キク科アキノキリンソウ属の多年草

奥畑ヴィレッジの現場

8月3日コーポラティブハウスに関心を持ち説明を聞きにこられたOさん(女性、場合によっては両親と一緒に住みたいとのこと)に、住宅事業の説明を1時間半あまり、しばしば話が弾んで他の話題に脱線しながら、行われました。ご自分が住まない場合でも、この住宅事業の宣伝を仲間にしていただけるとのこと、良い事業の理解者を得ることができました。

その後、スタッフ会議となり、斜面地のコモングの所有形態や管理方法、2戸1だけではなく、1戸建も場合によっては入れても良い事などを議論して決めました。事業の宣伝のために、きちんとしたホームページ制作を頼むことも決定しました。

南山東部地区におけるエリアマネジメントの動きが、野村不動産の412戸のマンション(プラウドシティ南山)の募集が1年後の入居を目指して始まって、動きが活発化しました。(海老塚)



里山コモンズ 奥畑ヴィレッジの説明会を毎月開催します。

南山で緑を活かしたライフスタイルの“実現に向けて”話し合います。

連絡 090-3579-4537(坂本)

090-6658-7611(梁川)

稲城市城山体験学習館 学習室 毎月第1日曜日 午前13時から16時



“新会員の仲間募集”

里山保全活動やオオタカ、サンショウウオの希少種調査など、会員として一緒に活動しませんか?

場所:稲城市城山体験学習館 学習室 毎月第1日曜日 13時から運営会

入会申込先:NPO南山の自然を守り育てる会

事務局:梁川(やながわ)携帯090-6658-7611

メールアドレス minamiyama@gmail.plala.or.jp

会報記事

提供のお願い

普段、何かと忙しくて会活動にあまり参画できない!! でも少しは会に貢献したい!! そんな会員の方はおられませんか?

私たちの会報を皆さんの力でもっと充実させませんか? 何でも結構ですので、記事の提供をお待ちしています^^ 広報担当 坂本